

「田んぼアート」発祥の地 田舎館村の地域ビジネス創出支援事業 成果報告

平成29年2月27日

田舎館村地域づくり活動支援協議会
代表 米田大吉







田
舎
館
村
役
場













1. 事業実施地域の課題

弥生の頃2,100年前から稲作を続けてきた田舎館村の人口は8,000人。
その田舎館村で毎年開催している「田んぼアート」は24年の実績があり、

年間32万人以上 を動員する地域資源！ しかし・・・

【課題】

- ① 当初は村民のお祭りだった「田んぼアート」の大規模化
 - ② 村内にめぼしいお土産品がない・宿泊施設がない
 - ③ 来場者の属性や移動手段すら把握ができていない
- ⇒ **村民がその恩恵を十分に享受できていない**

【課題解決の重要性】

地域文化の継承と、持続的に発展できる地域づくりのために、

- ① 村のことをジブンゴトにするしかけづくり(意識改革)
- ② 民泊システムの構築・新商品開発(外貨獲得)
- ③ 経済効果分析の実施(効率的な施策の自立的企画立案)

⇒ **地域全体の収益力アップや、村民が主体的に・継続的に外貨を獲得する意識を醸成**

2. 事業概要

(1) 事業の実施体制

① 協議会メンバーと役割分担

構成主体	役割(中間支援の内容)
プラットフォームあおもり	協議会メンバーと連携し、全体の統括を行う
田舎館村	担い手の組織化を主導し、村民参加型の地域づくりを推進
東奥信用金庫	村内唯一の金融機関 東奥信金が中心となって構成している企業間連携を活用
青森県中南県民局	県内の事例を研究し、知見を活用

② 担い手の概要及び取組内容

担い手	これまでの活動内容	本事業で新たに取り組む内容
「田園」未来を築く会	村営の埋蔵文化財センター等、 村内3施設の指定管理	○集客イベントの企画運営 ○新商品開発 ○民泊システムの構築・推進 ○来場者の把握・分析

私たちのこと



**プラットフォームあおもりは
青森県社会インフラになります**



私達のこと

設立2011年・今期スタッフ16名・前期売上92百万・今期見込120百万

東北経産局「地域中小企業人材確保・定着支援等事業」

「青森県COC＋共育型インターンシップ事業」

青森県「八戸圏域移住交流促進事業」

「あおもり回帰1000人会議」の開催運営

国交省「地域づくり活動支援体制整備事業」

経産省「ものづくりサプライチェーン再構築事業」

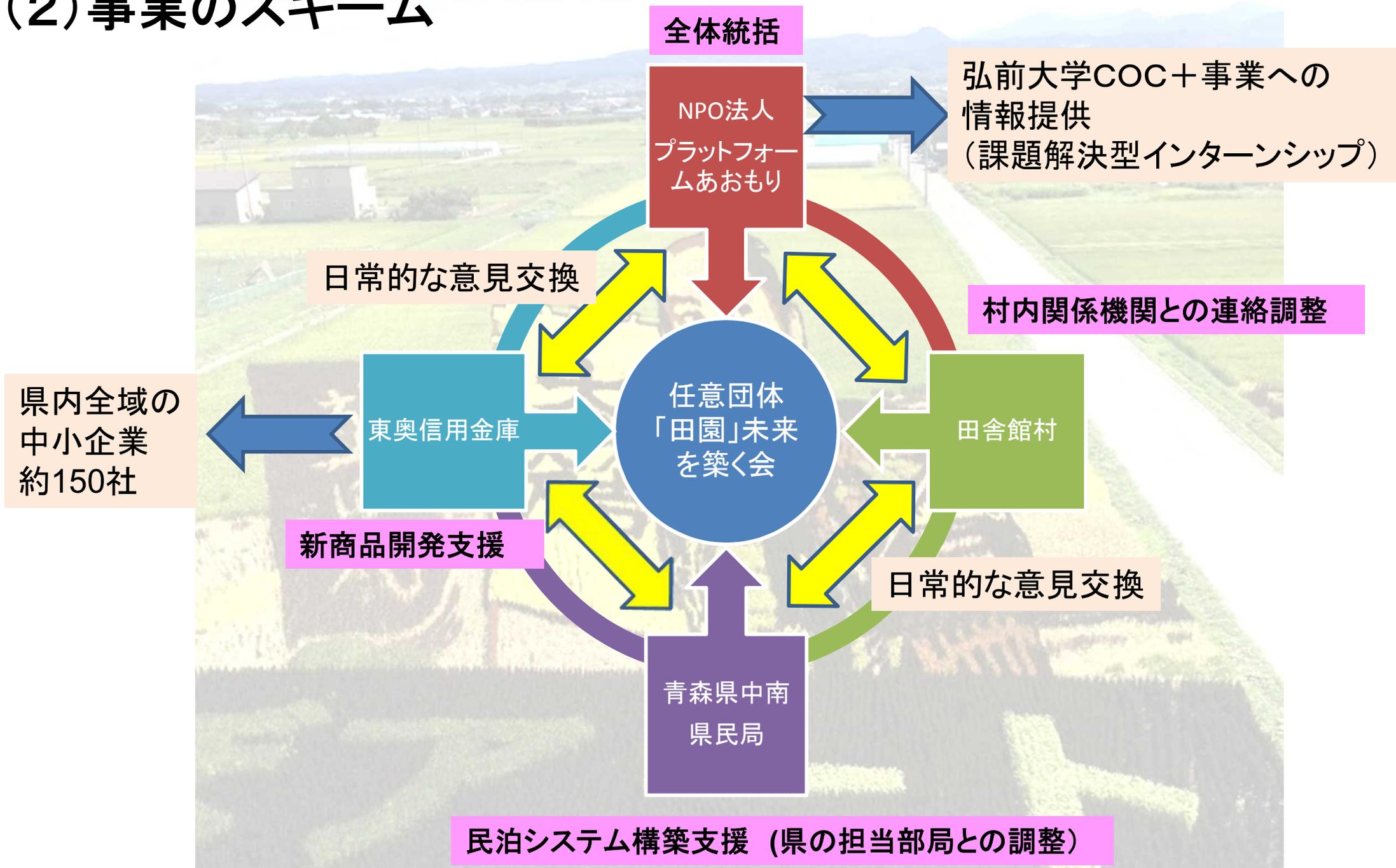
青森県産品販売促進事業

青森県「あおもり出会いサポートセンター事業」

青森市「子どもの居場所づくり・学習応援事業」等々

2. 事業概要

(2) 事業のスキーム



3. 各取組の概要

①取組1：新商品開発

担い手の強いこだわりである「**米に関する商品**」の**開発**を3種類以上行う。手始めに、協力企業と共同開発で「米ぬかラスク」の試作品が完成。来年5月の販売に向け、今年11月に行われた「ビジネスマッチ東北」にて試食とアンケート調査を実施。このほか、焼きおはぎ・遊稻サイダー・紫黒アイスなどのブラッシュアップを行い、新商品としてのネーミングを検討している段階。

◎取組の成果・課題

＝すべてを担い手が行うのではなく、適切なアウトソースの意識が出てきている。

◎活動の社会的意義・社会的成果

＝もともと地域のお祭りであった「田んぼアート」の存在価値の再確認。

◎地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

＝担い手の自立を後押し。村外とのコラボ企画の着地。

◎成果目標

成果指標	当初の状況	目標	達成状況(実績)
新商品の開発	忙しい時期だけ手作り	3品以上	計5品のブラッシュアップ 焼きおはぎ・遊稻サイダー・紫黒アイス・ぬカッキー等
看板メニューの開発	カレーとラーメンだけ	3品以上	道の駅を活用し、レトルト商品の開発を合わせて行う 弥生めし、紫黒アイス、焼きおはぎ 等











（一）（二）（三）だけ!!

数量限定!

アイス 50えん

この紫黒米シロップと
乳飲料で作ったよ

アイス ¥200
アイス ¥200

Handwritten notes on a yellow sticky note.





ぬかつき

ぬかつきー

150円

産地直送
 100% 単品無添加の特別製法で
 熟成させた（約100日間）高品質な
 本豆粉
 ぬかつきーは、産地直送の本豆粉を主
 たる原料として、本物の味を追求したお菓子です。
 ぬかつきーのひみつもみ



ネーミング絶妙「もつけの汁」



3. 各取組の概要

①取組2: 民泊システムの構築

まずは、農家民泊のシステム構築に向けた勉強会を開催し、村民が持っている民泊への高いハードルのイメージを無くすところからスタート。担い手が主体となり、村民を巻き込み、民泊協議会の設立を目指す。



◎取組の成果・課題

= 課題解決の必要性と、取り組みの方向性を共有

◎活動の社会的意義・社会的成果

= 村としての外貨の獲得と、民泊システムを活用した次のステップの機運醸成

◎地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

= 担い手の自立を後押し。Start up時点では協議会が事務局作業を代行。

◎成果目標

成果指標	当初の状況	目標	達成状況(実績)
協議会設立	ニーズの把握ができていない・事務局機能が無い	年度内設立	準備委員会が立ち上がり事務局は本協議会
参画農家の募集		10軒	勉強会に参加(9/26、2/19)



3. 各取組の概要

①取組3: 経済効果分析

クラウドを活用した経済効果分析等を行い、まずは来場者の属性や行動パターンについて把握する。イベントで来場者アンケートを実施(将来的にはITを活用)し、情報をDB化して、調査結果を元にしてイベントの企画立案と運営を行う。



◎各取組の成果・課題

= 情報収集やその分析、分析に基づく企画立案の重要性が認識されてきた。

◎活動の社会的意義・社会的成果

= ITを活用するベースを整備することで、国内他地域への波及効果がある。

◎地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

= 来年度は活用方法を検討しながら、データのブラッシュアップにつなげる。

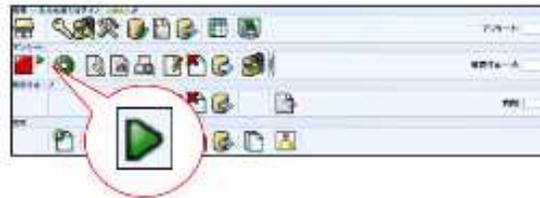
◎成果目標

成果指標	当初の状況	目標	達成状況(実績)
DB構築	紙ベース・電話聞き取り・ 人員不足で対応できない	年度内 整備	サンプルデータを入力し、活用 方法を検討

3. アンケート実行

アンケートの実行

- 1 メニューから実行アイコンをクリックします。



- 2 確認画面が表示されます。「アンケートを実行」をクリックします。

アンケートを実行

注意
次に進む前に、以下の点に注意してください。

アンケートを実行する際は、設定が完了し、変更する必要がないことを十分に確認してから行ってください。

アンケートが実行されると、以下の操作を行うことはできません:

- グループを追加または削除
- 質問を追加または削除
- サブ質問を追加または削除あるいはコードを変更

ただし、次の操作は可能です:

- 質問のコード/タイトル/テキストの編集とAPI/JSF設定オプション
- グループ名または結果を編集
- 回答オプションの追加、削除または編集
- アンケート名/概要を編集

アンケートにデータが入力されると、それ以後にグループや質問を追加/削除する際には、アンケートの実行を停止する必要があります。実行停止時は、それまでに入力されたデータは別のテーブルに保存されます。

[アンケートを実行](#)

質問タイプ

項目名	項目名
1 5点尺度	18 配列
2 はい/いいえ	19 配列二択
3 チェックボックス (コメントつき) ; 複数回答	20 配列 (1)
4 チェックボックス ; 複数回答	21 配列 (5)
5 リスト (コメントつき)	22 配列 (はらでもな
6 リスト (ドロップダウン) ; 単一回答	23 配列 (ア
7 リスト (ラジオボタン) ; 単一回答	24 配列 (何
8 列による配列	25 配列 (数
9 定型質問	26 順位付け
10 性別	
11 日付	
12 自由回答 (数字のみ)	
13 自由回答 (短い複数)	
14 自由回答 (短い)	
15 自由回答 (長い)	
16 自由回答 (非常に長い)	
17 言語の変更	

項目名
18 配列
19 配列二択
20 配列 (1)
21 配列 (5)
22 配列 (はらでもな
23 配列 (ア
24 配列 (何
25 配列 (数
26 順位付け

2. アンケート作成

アンケートの新規作成

- 1 LimeSurveyにログインし、「アンケートの作成」アイコンをクリックします。



- 2 「アンケートの作成」画面が表示されます。タブをクリックすると画面を切り替えることができ、アンケート全体に対する詳細な設定が行えます。各画面については以下で解説します。なお、このアンケート作成を完了するには、最後に「アンケートを保存」ボタンをクリックします。

：全般

アンケート名やアンケートに表示する文言等を設定するタブです。「基本言語」と「題名」は必ず入力する必要があります。「管理者」「E-mail」「パスワードメールアドレス」は自動で管理情報が入力されるため、変更したい場合のみ変更します。



3. 各取組の概要

①取組4: イベントの開催

担い手の自立化につながる収益性の高いイベントを実施するとともに、参加者からの情報をデータベースに落とし込む作業を行う。

◎各取組の成果・課題

= イベントの意味を共有して実施。

◎活動の社会的意義・社会的成果

= 村頼りだった意識から、自分たちの「田んぼアート」を取り戻す。

◎地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

= イベントは収益最優先ではないものの、助成金などがなくても持続できる体制を構築

◎成果目標

成果指標	当初の状況	目標	達成状況(実績)
イベントを開催するための事業計画やマニュアルの作成	事務局不在・タイムライン管理ができていない	3回実施	稲狩り・餅つき・冬のアートなど、イベントは開催できたが、分析を基にした事業計画は今後の課題













雪の 土器づくり

2/11(土)

12:30~14:30

参加対象 / どなたでも
参加料 / 500円

「田圃」未来を築く会
弥生人も楽しんだかも?
雪を使って、弥生式土器を作ろう!

ふらふらアート with Sinton & Co. Snow Art

4. 中間支援における課題と対応

◎中間支援の特徴、苦勞した点、工夫した点など

苦勞した点：担い手や村の「支援攻撃疲れ」への配慮

工夫した点：情報提供や支援表明ではなく、具体的なアクションを提供すること

◎体制として連携する上での苦勞、留意している点など

苦勞した点：苦勞は特にない

工夫した点：会議とSNS活用による密な情報共有、意見交換

◎体制として行っている広報の状況

苦勞した点：特にない

工夫した点：【村内】全戸回覧の活用 【村外】SNSや県のHPなどとの連携

◎体制の成長(スキル、ノウハウの蓄積など)につながった点

参画する個々人の役割分担と連携が、より明確になり深化した点

◎体制として連携することにより達成できたこと、メリット、効果

新年度事業展開前の相談・確認につながっている(来年度の予算獲得計画など)

◎金融機関、地方公共団体が加わったことによるメリット など

もともと連携できていたことが、この協議会の一番の強みであり存在理由

4. 中間支援対応例



約2ヶ月に1度開催している、東奥信用金庫とプラットフォームあおもり主催の企業向け研修会の様子。田舎館村を含む弘前地区の中小企業や、信用金庫職員が参加。

4. 中間支援対応例



経済産業省平成28年度「地域中小企業・小規模事業者人材確保支援事業」

今年度の 中小企業経営力強化研修会 の概要

2016/6/7・8・15

NPO法人プラットフォームあおもり 理事長 米田大吉

©2015 プラットフォームあおもり

6・9・1月の中小企業経営力強化研修会

<実施体制図>

東北経済産業局委託事業

実施主体: NPO法人プラットフォームあおもり

共催依頼

青

2016-2017 中小企業経営力強化研修会

1. テーマ

グングン営業力がアップする!!

人と商品の魅力アップ

2. コンセプト

①社員のやる気と能力

②企業と商品の魅力

2016-2017 中小企業経営力強化研修会

<構成と時間の目安> 6月・9月・1月

第1部

社員のやる気と能力を引き出す戦略的な人材育成 120分

※全3回【池谷 昌之講師】

第2部

企業と商品の魅力を伝える人材 60分

※全3回【工藤 淳生講師】

～研修会終了後に交流会を開催～

7・10月の中小企業経営力強化研修会

<実施体制図>

主体：青森県信用金庫協会
(青い森信用金庫・東奥信用金庫)、
青森県新産業創造課、
青森市あおもり産品企業支援課

→集客・広報

業務委託

NPO法人プラットフォーム

2016-2017 中小企業経営力強化研修会

<構成と時間の目安> 7月・10月

第1部

情報発信・商談ノウハウについて 60分

※全2回【工藤 淳生講師】

第2部

テーマ別講習 60分

※全2回【横内 靖講師・工藤 淳生講師・米田 吉宏講師】

第3部

商品PRタイム 30分

※全2回【横内 靖講師】

～研修会終了後に交流会を開催～

©2015 プラットフォームあおもり

5. 中間支援体制としての成果



6. 次年度以降の予定

◎活動費の確保

村の助成金や、農水省農村漁村振興交付金「農泊推進対策」事業などを活用することで活動費を確保

◎体制の活動の継続に向けた事業展開

地域おこし協力隊の活用(地域おこし協力隊の人材ニーズを再定義)

◎体制の継続・拡充

現状通りで継続予定

(担い手を新たに増やすことは、地域の実情にそぐわない)

◎担い手に対する支援の事業計画(2017-2018)

①農家民泊のテスト実施支援 (2017/5～2017/11)

②開発した新商品の販売開始支援 (2017/5～2017/10)

③地域おこし協力隊による経済分析に裏付けられた企画立案支援
(2017/4～2018/3)

④地域を巻き込んだイベントや活動の運営支援(2017/5～2018/3)